

## 学力グループが固定されていく

小学4年生というと、地域や学校によっては学童保育が終了する学年であったり、反抗期に突入したりするなど、親にとっては色々と悩みが増えていく学年です。

心理面でも、他者との違いを強く意識するようになり、子供から徐々に大人への階段を上り始める年頃。個人差はありますが、それまでの「子供らしさ」が薄れて、親など周囲の大人とぶつかることも多くなります。

一方、学校では小数など、ぱっと見てすぐに答えを導き出せない単元を学ぶようになります。抽象的な学問に触れることに自分の心の変化も加わり、将来に対して不安を覚えたり、優秀なクラスメイトに対して劣等感を抱いたりする子も出てきます。

自信を持ってない子は今まで以上に「勉強が得意ではない」と感じるようになり、やる気が出てこなくなる。その一方で、低学年の頃からコツコツ真面目に勉強してきた子には、クラスメイトの苦戦を尻目にテストで高得点を連発する子も出てくる。

小学4年生を境に学力差が目立つようになるのは、決して学習内容の難易度が上がるという理由だけで片づけられません。精神面での成長と勉強内容のレベルアップが絡み合う学年が小学4年生に当たり、伸びる子と伸び悩む子の差が目立つようになってくるのです。